

農薬チェックリスト

全農ちば 営農支援部

窓口の7道具 (これだけは揃えましょう!)

	項目	備考	フィッ
1	営農情報	営農指導員, 全農ちば, 農業事務所 技術資料	
2	病害虫・雑草図鑑	必ず写真付きのもの	
3	千葉県病害虫雑草防除指針	「県基準」: 作物ごとに記載。	
4	農薬の在庫リスト	定期的に点検し、時期別に農薬を整理	
5	農薬登録確認ツール	農文協電子パネル・タブレット HP 例: アピネス・JPP・農薬メーカー	
6	農薬混合事例集	マイナー品目はメーカー確認	
7	農薬譲渡台帳	毒・劇物農薬の販売に必須	

防除方法を問い合わせるときには!

(「作物が枯れた」や「虫が着いた」だけでは質問には答えられません。下記の内容で、できるだけ詳しく状況を聞いて下さい)

1. 作物名
2. 場所 (水田、露地、施設、果樹園、庭先など)
3. 生育状況
4. 発生時期
5. 防除方法 (今までどんな薬剤を散布したか? 薬剤名、濃度、時期など)

・病気の場合には・・・

- (1) 発生場所 (茎、葉、果実、地際、根など)
- (2) 発生時期 (いつ頃から見られたのか?)
- (3) 病気の形、色など (茶色い斑点、白い粉状、水浸状など)
- (4) 程度 (発生の割合)

・害虫の場合には・・・

- (1) 被害場所 (茎、葉、果実、地際、根など)
- (2) 発生時期 (いつ頃から見られたのか?)
- (3) 被害の状況、加害のしかた
- (4) 害虫の色、形、大きさ
- (5) 程度 (発生の割合)

・雑草の場合には・・・

- (1) 発生場所 (農地、非農耕地など)
- (2) 雑草の種類 (葉草、広葉、スギナ、ササ、ツユクサなど)
わからなければ形、色、大きさなど
- (3) 程度 (発生の割合)

誰に聞くか?

1. 農協の営農指導員 () 課: () Tel
2. 全農ちばの地区担当 (肥料農薬課) : () Tel
3. 全農ちば 営農技術センター (0476-22-5131 栽培: 卜部、土壤診断事務: 大野)
営農技術普及課 (043-245-7373 農薬: 名雪、土壤肥料: 古内、水稻: 古内)
4. 農業事務所 () 農業事務所 () 普及員) Tel
- 5.

生産者へアドバイス！

- 農薬のラベルをよく読んでもらう
- 安全防除（マスクと防除着）と安全使用基準の遵守
- 毒物、劇物は ○保管場所が指定されます。（カギのかかる場所に保管を）
 - ※毒物：ブリグロックスLなど
 - 住所、氏名の記帳と捺印が必要
- 水質汚濁性農薬「シマジン」→○住所、氏名等の記帳が必要(捺印は不要)
 - 農耕地以外では使用できない

- スタークル、アドマイヤーなどの粒剤は乾燥条件では作物の根が薬剤を吸収できないので、効果が不安定に→処理後に十分灌水が必要

- D-D、トラベックサイド油剤、クロールピクリンなどの土壤消毒剤は高温乾燥時にはガスがすぐに抜けてしまうため、灌水をして適度な水分を持たせた後に処理をする。なお、クロールピクリンは消毒後の被覆が必須事項。また、ガスタード（バスタド）は適切な土壤水分管理と被覆、十分な処理期間、十分なガス抜き（耕耘を最低2回以上実施する）の徹底を！

- 除草剤は→○水田除草剤は時期(初期剤、一発剤、後期剤など)と散布方法
 - 農耕地用か？非農耕地用か？ →はっきりと伝えましょう
 - 茎葉処理剤か？土壤処理剤か？→薬剤の効き方を正確に伝える
 - 茎葉処理剤の場合 →効き方を伝える
 - ※ブリグロックスはすぐ枯れるが再生早い、ラウンドアップマックスロードは枯れるまで時間がかかるが効果は長期間

- 殺虫剤は→○薬剤によって効き方が異なります。
 - ※IGR剤(マツチ、ノルト、アブロン、カケド等)は幼虫が脱皮するときに効果を発揮
 - 遅効的、そのあいだ食害は続く
 - ※BT剤はチョウ目害虫だけ。散布後、食害は少なくなるが死ぬまで時間がかかる
 - 同一作型の同一害虫に対して、同じグループの薬剤を続けて使用させない(ローテーション散布)

- 殺ダニ剤は→○発生の初期に、たっぴりと撒きムラのないように
 - 薬剤によって効き方が異なる
 - ※バロック、ニッソラン、ダニゲッターは殺卵効果。成虫には効かないので大発生時には手遅れとなる
 - 同じグループの薬剤を続けて使用させない
 - 総使用回数に注意！（1作で1回もしくは2回という剤が多い）

- 殺菌剤は→○予防剤か？治療剤か？→使い方が異なる
 - 耐性菌の出やすい薬剤は同一作型で同じグループの薬剤を続けて使用させない(ローテーション散布)
 - 耐性菌の出やすい殺菌剤：トップジンM、ベンレート、ロブラール、スミレックス、リドミル、EBI・DMI剤(トリフミン、スコアなど)、ポリオキシシン、QoI剤・ストロビルリン系(ストロビー、アミスター)、SDHI剤(アフエット、カンタス)など